

要旨

1990年代中国の経済的な特徴としては為替政策の独立、資本管制である。中国の資本自由化が進むとともにこのような経済特性は続くことはできない。中国は新たなマクロ経済対策が必要とされている。2005年7月、人民元為替制度の改革が行われた。中国の為替制度はバスケットを参考とした管理フロート制に変わった。しかしながら、次のステップとしては、どのような改革をすれば人民元為替制度は安定的変動相場制に移るのかという問題である。

本論文は、数多くの学者の研究を基にし、通貨バスケット制度の意味、政策目標、特徴などを分析した。さらに、ドルペッグ制と通過バスケット制の区別も分析した。現在中国当局が積極的に行っている各種措置は、企業や個人に相場変動リスクを回避する手段を準備していることである。最近の中国の矢継ぎ早の外国為替市場整備策は、人民元が次第に市場経済の国の通貨となり、市場経済の国と同じように、為替リスクをヘッジする手段を整備するための措置である。通貨バスケット制の「縮小機能」は人民元とある重要通貨の間で安定的な機能を果している。通貨バスケット制は為替レートの応変に対して強い、政府対経済のコントロールを減少させ、中国銀行対外国為替市場圧力の減少などのメリットがある。通貨バスケット制度のもとで、中国は各国との貿易量により、通貨バスケットに入れる通貨を選択することは可能である。そして、中国は通貨バスケット制度を採用したら、人民元対アメリカドルの為替レートはドルペッグと違い、つねに変動している。この点については、外国為替市場に対する単項投機行為を防ぐことができる。中国は現在「バスケットを参考とした管理フロート制」を採用しているが、これから「通貨バスケット制」を採用するというのが筆者の主張である。中国は通貨バスケット制でいろいろなことを勉強し、将来的に「変動相場制」になることを期待する。